

令和7年度授業改善推進プラン（調査結果分析シート）

西東京市立青嵐中学校

全国学力学習状況調査（中学校第3学年）

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	1四 ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く。	31.1	ほぼすべての問題において、全国・都の平均と同程度の分布であり、資料から情報を選択する問いについては正答率が高かった。また、短答式で答える問いにおいては、東京都の平均よりも6.6ポイント、全国平均より8.5ポイント高い結果となった。誤っている漢字を修正する問いにおいても、全国・都より高い結果であると調査を踏まえてわかった。	本校の課題として挙げられるのは、読み手の立場に立って、情報を整理することや、根拠を明確にした文章を記述できるようにすることである。その課題を解決するために、日々の学習の中で、文章の型を示し、繰り返し文を書かせていくことや、語彙を豊かにし、それを使いこなすこと、文末表現や文体に注目しながら妥当性のある文章を作成するといった記述に対して段階的に慣れさせていくことを重点的に指導していく。
	2四 発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く。	26.5		
	3四 「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとどのように考えた理由を書く。	21.2		
	4二 手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見付けて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く。	37.7		
数学	1:1から9までの数の中から素数を全て選ぶ	31.4	学習指導要領の領域別に見ると、「図形」「データの活用」の2領域については、青嵐中の正答率が全国・東京都とともに上回る結果となった。評価の観点別に見ると、「知識・技能」「思考・判断・表現」の2領域について、青嵐中は全国・東京都と同程度あるいはそれらを上回る結果となった。少人数による習熟の程度に応じた指導方法が実を結びつつあるとも捉えられる。	「数と式」の領域については東京都に対して-0.1ポイント、「関数」の領域については、全国に対して-0.1ポイント、東京都に対して-4.3ポイントとなっている。この結果から、青嵐中の生徒は特に「関数」の領域についての学習課題があると推察できる。基礎的・基本的事項の定着はもちろんだが、事象に即して必要な情報を読み取る力や、事象を数学的に解釈する力、問題解決の方法を数学的に説明する力を伸ばしていく必要がある。
	4:一次関数 $y=6x+5$ について、 x の増加量が2のときの y の増加量を求める	33.3		
	8(1):A駅からの走行距離と運賃の関係を表すグラフの何を読み取ればC駅とD駅の間の走行距離が分かるかを選ぶ	72.5		
	8(2):A駅から60.0km地点につくられる新しい駅の運賃がおおよそ何円になるかを求める方法を説明する	38.6		